

## 子宮がん検診（車検診）

### 動 向

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村からの委託事業として当協会が配車し、細胞診断と結果報告を担当している。検診は県下の北里大学・東海大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院の産婦人科の医師が担当し、この5大学と県立がんセンターの婦人科腫瘍専門医からなる「子宮がん車検診実施検討会」で、精度管理・向上に努めている。

昨年度から「再診者」を従来の車検診既受診者から変更し、“最近3年以内にいずれかの施設で検診を受診したと申告した者”と規定している。

### 子宮頸がん検診結果

検診実施数は20,779名で、昨年度より569名減少し、H24以来微減傾向にある。年齢階級別では、やはり60歳代が最も多く、次いで40歳代、70歳代以上と50歳代の順で、高年者に多かった。期待された30歳未満の受診者は昨年より少ない430名、2.1%だった。40歳未満では10.1%と年々減少傾向にある。また、初診者（初めての検診受診者、4,202名）は20.2%に止まった。うち若年者の割合は30歳未満5.6%、30歳代11.0%で、昨年より低下した。

要再検・精検率では、細胞診LSIL以上（旧分類クラスIIIa以上）の要精検者は0.62%（129名）、ASC-US（クラスII再検）による要再検者は1.05%（219名、うちNILMなるも検診医の指示1名を含む）だった。昨年の0.54%、1.00%より少し高く、両者合わせた要再検・精検率は1.67%だった。再・精検の実施率は平成28年8月末の集計時点で84.48%、うち精検者86.82%、再検者83.11%だった。昨年度とはほぼ同様の水準にある。

要再検・精検者の再検・精検結果は表4～6の如くである。発見癌のうち頸癌は5例（上皮内癌2例の外、上皮内腺癌、Ⅱ期以上また病気不詳それぞれ1例）で、早期癌の頻度は60%だった。頸癌発見率0.02%は例年の0.05%を下回った。しかし、初診者からの頸がん発見率は0.12%と高く、一方、再診者（検診受診経験者）からの癌は発見されなかった。初診者での癌発見率では、最も高い発見率が近年では40歳代から30歳代に若年化していたが、本年度は共に0.22%と高かった。初診者の多い30-49歳の若年者で高い頸がん発見率であることには変わりがないが、70歳以上の初診者でも1例（0.18%）を記録した。

発見された異形成は91例（軽度40例、中等度34

例、高度14例また腺異型3例）である。異形成発見率は0.44%で、昨年の0.37%より高かった。初診者の、異形成の発見率は0.74%と一層高く、年齢階級別では30歳未満1.04%、30歳代3.09%、40歳代1.32%を示し、若年初診者に高かった。しかし、65歳以上でも0.28%を示していた。再診者からも、異形成は0.36%の高頻度で発見され、とりわけ20、30、40歳代ではそれぞれ0.51%、1.33%、0.60%と高い頻度だった。さらに年長者でも発見されている。繰り返し受診者であっても異形成の発見頻度は低いことを銘記していきたい。

細胞診判定ASC-USのため要再検となった者219名から、異形成が28例（0.13%）（軽度18例、中等度9例、高度1例）が発見されている。

頸癌以外の癌は、本年度は発見されなかった。

### 評 価

若年者の受診は期待に反して伸び悩んでいた。20、30歳代の若年者では異形成や頸癌の発見率が高いところから、若年者の検診受診が一層勧奨される。

これまで、要再検・精検実施率の高い実績を誇ってきたが、一次検診を担当した県下各大学に誘導することによって達成できたことである。一時低下傾向にあったが、本年度は昨年度と同等に改善した。

子宮頸癌ならびに異形成の発見率は初診者に高いことはこれまでの統計通りであり、未受診者への受診勧奨に一層努めたい。一方、再診者での癌発見率は著しく低下するものの、異形成の発見率は0.36%と高頻度を示していることから、再診者へも定期的な検診受診の継続が勧奨される。

総検診数の低下は、子宮がん検診無料クーポン券が20歳に限定されたせいであろう。配布が無くとも一層の受診勧奨に努めたい。

細胞診報告様式であるベセスダシステム準拠日本産婦人科医会分類は順調に普及しているが、新基準であるASC-USにより要再検の頻度が上昇している。しかし、その頻度は1.09%に止まっており、順当な頻度と思われる。

一人の受診者から痛みと出血についてのクレームあり、これについての経緯と対処について検討会で報告・議論された。受診者に苦痛を与えないように検診業務を実施することを再確認するとともに、陰鏡の使用を時代に合ったSサイズを標準とするよう、取り決めた。

関係の集計表は89頁に掲載